



山添拓参院議員 縦横無尽に語る

日本共産党は5月18日、新潟市の万代市民会館大ホールを会場に、山添拓参院議員・政策委員長を囲んでのタウンミーティングを開催しました。

会場いっぱいの150人近くが参加し、山添議員に直接疑問をぶつけ、山添議員がその一つ一つに丁寧に答えました。

卒業と同時に奨学金の返済という重い負債を抱えることになる学生生活の苦しみや、家庭にとっていまだに大きな負担になっている介護のこと、それに上がる一方の米の値段のことなど、一つ一つが切実な問題です。

山添議員は、それらの問題の本質を明らかにするとともに、日本共産党の政策を実現させることによってすべて解決できることを、ときおりユーモアを交えて熱く語りました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.872 2025年5月25日

連 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 絡 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))
 ホームページ <https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/>



半減する可能性もありました。その後、激減に危機感を抱き、市をあげて国に要望する中で、国の当初の計画よりも減額幅を抑えることができましたが、大幅に減ることは避けることができず、いまだに合併前の水準には達していません。

式典で繰り返し強調されていたように、当市には豊かな自然や、多様な農作物をはじめとした産物が多いほか、温かな人情や歴史、文化に支えられ、訪れる人がほっとする地域でもあります。それらをどう大切に活かしていくのかを、今こそしっかりと見直すチャンスです。

全国最多14市町村の合併から今年で20年 合併は市民生活に 何をもたらしたのか

同時合併としては全国最多の14市町村が合併して、新上越市が発足したのは2005年1月1日ですから、今年で20年になります。

その合併20周年を記念する式典が、17日にオーレンプラザで行われました。

この式典では20周年を祝い、わがまち上越のすばらしさや発展の可能性を語り合いました。

それらの言葉一つひとつには、それを支えてきた重みがあり、社交辞令として飾り付けた浅薄なものではない真実がありました。

しかし、20年を経て今振り返るべきは、この大合併が市民生活に何をもたらしたのかということではないでしょうか。

そもそもこの合併は、国の地方切り捨て方針に基づいて、国主導で進められたものでした。その結果、地方交付税は激減し、当市では一時合併前と比べ

も減りました。

その結果、どの町村(現在の区)でも人口の減少は甚だしく、合併前と比べて、実に2割から5割も減っています。

当然、残った市民の日常生活にも大きな影響があり、「買い物難民」が生まれたほか、公共交通の衰退で日常の移動すらままならない状況もあります。

合併20年を機に、このような事態を招いた原因を客観的に分析し、これから取るべき対策は何なのか、どうすれば安心できる暮らしを支えることができるのかを指し示すことこそが大事ではないでしょうか。

また、合併した13町村では、首長や議会がなくなること、独自の政策を打ち出すことができなくなり、住民の声が行政に届きにくくなったことが指摘されています。さらに、役場という中心事業所がなくなったことは、飲食店をはじめとした多くの事業所の撤退など、地元経済にとって大きな影響を与えています。



5月17日に行われた合併20周年記念式典には、県知事(代理で副知事が出席)や各国会議員、それに当市と姉妹関係にある各市町の首長などが招かれ、市長の式辞、県知事など来賓の祝辞といったフォーマルなセレモニーが行われました。

そしてその後、市にゆかりのある著名人のメッセージ紹介や、当市に住み各分野で市を支えていこうとしている若い世代4人の記念トークが行われたほか、上越高校ダンス部とおもてなし武将隊のパフォーマンスが披露されました。写真は、最後の関の声(ときのこえ)を上げている場面です。